

# インドネシア、バリ州の聴覚障がいのある子どもの施設 SLB A NEGERI DENPASAR について

木村 あい<sup>1</sup>, Desak Made Wihandani<sup>2</sup>

About the school for the deaf in Bali, Indonesia.  
SLB A NEGERI DENPASAR

Ai Kimura, Desak Made Wihandani

## 要 旨

本稿は、バリ州における聴覚障がいのある子どもの施設であるスシュルサ・プレイグループ教育機関の概要をまとめたものである。

スシュルサ・プレイグループは、聴覚障がいを抱え、周囲とのコミュニケーションや意思の疎通に課題がある子どもに教育サービスを提供している施設である。理念や方針、アプローチの方法、設備等を報告する。

**キーワード：**バリ州、聴覚障がいのある子どもの施設、SLB A NEGERI DENPASAR

## はじめに

本学部の国際健康福祉プログラム I において、聴覚障がいのある子どもの施設で実習をした。2つのクラスで折り紙を通して、非言語コミュニケーションを用いて交流を図った。

聴覚障がいのある子どもとのコミュニケーションにおいて、非言語コミュニケーションを活用することは重要である。

今回の実習は2日間と短期間であったが、今後の実習に向けて施設の概要をパンフレットを元に職員から聞き取りをしたため記録しておく。

## 1 インドネシア、バリ州の概要

インドネシアは、13,000以上の島からなる国である。人口は2億6千万人以上である。バリ州はインドネシアの5つの主要な島の1つである。バリ州の面積は5,781k m<sup>2</sup>、人口は442万5千人(2014年)である。観光業が盛んで、日本からは年間25万人以上が渡航している<sup>1)</sup>。

インドネシアの宗教は9割がイスラム教であるが、バリ州においてはヒンドゥー教が9割を占めるといわれている。バリ州の地域社会では、バリ・ヒンドゥーに基づく慣習様式に従った生活が営まれており、地域をベースとして、様々な労働作業

1 神戸女子大学 健康福祉学部 社会福祉学科

2 ウダヤナ大学医学部生化学教室

や宗教儀礼が共同で行われている。また、人々は、ガムラン演奏団、青年団、舞踊団、自警団、合唱団等、目的に沿った集団に属しており、地域住民同士のつながりは深い。

2010年のインドネシア中央統計省(Bandan Pusat Statistik:BPS)によると、満2歳以上のバリ州の総人口は3,753,902名である。そのうち障がいのある人は162,130名で障害人口比率は4.32%である<sup>2)</sup>。

## 2 バリ州における聴覚障がいのある子どものための施設

インドネシアにおいて、障がいのある子ども向けの学校は「特別学校」と総称され、①特別養護学校(生徒は障がいのある子どものみ)、②インクルーシブ教育校の2種類がありそれぞれに小学校、中学校、高等学校が存在する<sup>3)</sup>。

授業料に関して、公立の場合は小学校、中学校は管理費、運営費、授業料等は無料である。交通費、鞆、靴、制服などは個人負担であり、学校の維持管理運営に必要な経費は州政府予算や国からの補助金があてられる。私立の場合は、学校によって異なっている。

バリ州においては、聴覚障がいのある子どもの教育機関は8校ある(公立4校、私立4校)。それらは、わが国における聾学校(聴覚特別支援学校)と類似した通園・通学の施設である。そのうちの私立スシュルサ・プレイグループ教育機関について記していく。

### 1) スシュルサ・プレイグループ教育機関

2007年設立された私立の教育施設であり、2018年8月現在の生徒数は74名(幼稚部:44名、小学部:30名)である。教員18名、事務員2名のスタッフで運営されている。

デンパサールにあるスシュルサ・プレイグ

ループは、聴覚障がいを抱え周囲とのコミュニケーションや意思の疎通に課題がある子どもに教育やサービスを提供している。このような子どもたちは、自らが人間として存在し、尊厳を護り、その子を取り巻く環境を整えて、本人の聴覚を最大限に発揮させ活用する教育をできるだけ早期に受ける必要がある。

### 1) - (1) 理念

子どもの潜在能力を早期に発見し、文化的自立を促すため、科学技術、信仰心、そして神への敬虔な怖れを用いて民主的教育を実現すること

①子どもの内的・外的コミュニケーションや周囲とのコミュニケーションが成立すること

②コミュニケーションを図ることや潜在能力や残された聴力の発達のために補聴器を使用すること

③自らの信念に沿って、適切に礼拝できること

④適切に自己管理ができること

### 1) - (2) 方針

子どもの今後の成長をサポートするため、音や振動を認識し区別するという持てる能力を通して、声や振動を聞いたり、感じたりする基本的な能力を身につける

①カリキュラムに則った適切な教育の実施

②複数の音の発生源を認識する生徒の能力向上

③生徒の聴力に対する建設的な相互作用の成立

④残された聴覚を社会生活への順応に活用したいという生徒の欲求の発育と発達

### 1) - (3) アプローチのシステムと方法

聴覚機能が十分でないことから、幼いころから自らが持てる聴力を子どもたちが活用してこなかったか、もしくは十分に活用できていなかったことを考慮し、全言語領域を網羅したシグナルの構成要素を組み合わせることによりコミュニケーションの成立を図る(トータルコ

コミュニケーション)。

#### 1) - (4) 設備

①スシュルサ教育機関は、ALF-RESET/YKIPと提携し、スシュルサ・プレイグループで教育を受ける生徒に対して、無料で脳幹電気反応聴力検査 (BERA) サービスを提供している。

②聴力検査用のオーディオスペースが利用可能

③言語聴覚療法スペースが利用可能

④教室はエアコンつきである

⑤補聴器も利用可能

### 3 利益相反

本研究における利益相反は存在しない。

#### おわりに

国際健康福祉プログラム I で実習したスシュルサ教育機関の概要を記した。今後の課題として、実習の継続については施設とのコミュニケーションを図りながら、社会福祉学科学生が聴覚障がいのある子どもと非言語コミュニケーションを用いて関わることによって成立するストロークを確認していくことが必要である。また、非言語コミュニケーションのアプローチ方法を検討していくことが重要である。

#### 謝辞

この実習を進めるに当たり、SLB A NEGERI DENPASAR の Raka Witari,SH 先生、Made Winda 先生には大変お世話になりました。また、施設の概要の掲載について許可をいただきありがとうございました。

#### 引用文献

1) 総務省統計局ホームページ ,<http://www.stat.go.jp/info/link/5.html#p1>, 最終アクセス2018.9.29

2) Badan Pusat Statistik (Central Bureau of Statistics) ,staitistik Indonesia,2010.

3) 国際協力機構 , 国別障害関連情報インドネシア ,2015年 9 月 , <http://gwweb.jica.go.jp/km/FSubject0601.nsf>, 最終アクセス2018.9.29

#### 参考文献

インドネシア共和国観光省公式ホームページ ,<https://www.visitindonesia.jp/index.html> 最終アクセス2018.9.29

外務省ホームページ , <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/indonesia/index.html>, 最終アクセス2018.9.29